# 1. 安全衛生管理

ハインリッヒの法則に基づく安全衛生管理を推進する。

ハインリッヒの法則とは、1件の重大事故・災害の背後には29件の軽微な事故・災害があり、その背景には300件の異常（ヒヤリ・ハット）が存在するというものである。

# 2. リスクアセスメント

安全衛生の水準を向上させるためには、労働災害の危険の芽（リスク）を事前に摘み取ることが大事であり、リスクアセスメントをそのための有効な手段として位置づける。

リスクアセスメントは、次のように進める。

1. リスクアセスメントを開始する。
2. ハザードを特定する。
3. リスクを見積もる。
4. リスクの評価を行う。
5. 許容できるリスクであれば終了とする。
6. 許容できないリスクであると判断すれば、リスクの除去・低減対策を講じ、リスクの見積もりに戻って再度リスク評価を行う。

# 3. 安全衛生マネジメントの指標・データ

安全衛生マネジメントの指標・データには、次のようなものがある。

労働災害件数：管理データとしては労働災害件数を使い、管理用紙はSHM様式1を使って四半期ごとにデータをとる。

労働災害死傷者数：管理データとしては労働災害死傷者数を使い、管理用紙はSHM様式1を使って四半期ごとにデータをとる。

休業日数：管理データとしては延べ休業日数を使い、管理用紙はSHM様式1を使って四半期ごとにデータをとる。

度数率：管理データとしては作業者数、延実労働時間数、労働災害死傷者数を使い、管理用紙はSHM様式1を使って四半期ごとにデータをとる。

リスクレベル改善率：管理データとしては作業行動分析、リスク評価、対策内容を使い、管理用紙はSHM様式2を使って年に一度データをとる。

リスクの特定件数：管理データとしてはリスク件数を使い、管理用紙はSHM様式3を使って半年ごとにデータをとる。

教育時間：管理データとしては延べ教育時間を使い、管理用紙はSHM様式4を使って半年ごとにデータをとる。